

KWANSEI GAKUIN
SCHOOL OF THEOLOGY



神 学 部 報

No.126 2025.11

— 秋季学術講演会 —

2025年10月21日(火)、関西学院会館レセプションホールにて秋季学術講演会を開催しました。ベルリン・フンボルト大学神学部教授、国際旧約学会会長であるベルント・U. シッパー氏をお招きし、「『私の先祖はさすらいのアラム人でした』(申命記26章5節) - 古代イスラエルの歴史と旧約聖書文学の形成」と題してお話しいただきました。(詳細な報告は5頁をご覧ください。)



Instagram



KCTHEOLOGICA

発行 関西学院大学神学部広報委員会
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155
電話 (0798) 54-6200
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/

Facebook



夏期派遣報告 2025

朴 鍾明 【大学院】キリスト教伝道者コース

＜期間＞7月29日（火）～8月7日（木）

＜派遣先＞日本基督教団 八幡浜教会

日本基督教団 宇和島中町教会

日本基督教団 三瓶教会



私は7月29日から8月7日まで愛媛県へ夏期派遣に行ってまいりました。短い日程でしたが、八幡浜教会、宇和島中町教会、三瓶教会に滞在し、さまざまな経験をすることができました。4教会（八幡浜・三瓶・伊予吉田・卯之町）合同祈祷会、日土教会礼拝、宇和島中町教会 CS デイキャンプ、三瓶幼稚園、八幡浜教会礼拝、宇和島中町教会祈祷会、伊予吉田教会礼拝に参加しました。これらの時間の中で最も心に残っているのは、人々との分かち合いでした。移動の途中や食事の席で牧師先生方と交わした会話、信徒の方々のお話、子どもたちと一緒に遊んだ時間が、私の心に深く残っています。互いに国や背景、年齢が異なっていても、キリストという大きな愛の中で交わり、同じ目標に向かって歩む同伴者であることを知ったからです。現在、日本のキリスト教はたいへん厳しい時期にあります。実際に私が愛媛で見たときにも、厳しい現実であると感じました。それでも、信仰を守る一人ひとりの姿を見ました。その方々がいるからこそ、困難をも乗り越えられるという希望を見ました。私もその希望の一筋になりたいと考えました。神学生として受け入れてください、宿泊・移動や食事のご準備など、温かいご配慮に心より感謝申し上げます。いただいた出会いと学びを胸に刻み、祈りつつ今後の奉仕に生かしてまいります。

朝川 優真 【大学院】キリスト教伝道者コース

＜期間＞8月2日（土）～8月11日（月）

＜派遣先＞日本基督教団 益田教会

＜期間＞8月16日（土）～8月31日（日）

＜派遣先＞日本基督教団 岩村田教会

日本基督教団 信濃村教会



8月2日から11日まで島根県益田教会に、16日から31日まで長野県岩村田教会、信濃村教会に夏期派遣神学生として実習を行ってまいりましたので報告します。

益田では周辺教会（津和野教会、津和野カトリック教会、川本教会、沢谷伝道所、萩教会、長門教会、益田カトリック教会）の牧師との交わりや愛真高校の訪問の時が与えられました。そこでは山陰伝道の歴史や、キリスト教の話を聞きました。神学部の現状や山陰伝道の現状を共有し、今後、いかにして伝道していくかについてお話ししました。

長野県では主に信濃村教会に滞在しました。現在専任教師がおらず、岩村田教会の宇田先生の代務のもと受け入れてくださいました。岩村田教会は付帯施設として、保育園があり、子供礼拝にも参加者がいる教会でした。礼拝の後にお茶会を開いていただき、信濃村教会では牧師館に滞在させていただきましたが毎日のように教員の方々が気にかけてくださいました。

付近には野尻湖国際村という宣教師がつくった村があり、その村を訪ね、現地の人にお話を聞きしました。国際村のメンバーの多くは別荘として利用しており、夏期以外はそれぞれの地域で生活しています。国際村では様々な集会があり、私はその中の日本人男性の会に参加し、そこで、日本における子供、孫世代への信仰継承の課題という内容でそれぞれの教会の経験から話が進められました。

監理教神学大学 (Methodist Theological University) 来訪報告

2025年8月25日、韓国で最も長い歴史を有し、関西学院大学神学部とも協定を結んでいる監理教神学大学(MTU)の学生が神学部を訪問。今回の訪問は、MTUの「Global Program in Japan」の一環として実施され、学生32名に加え、ソ・ヨハン准教授および職員2名が同行されました。プログラムの開始にあたり、神学部を訪問され、チャペルにおいて中道院長ならびに岩野学部長より歓迎の挨拶があり、続いてソ・ヨハン准教授から感謝の言葉が述べられました。その後、3号教室に移動し、関西学院や神学部の歴史と現状、さらに神学部学生会の活動について説明が行われ、キャンパスツ

アーも実施されました。MTUの卒業生である大学院1年生の朴鍾明さんが通訳やコーディネートを務められ、神学部の学生7名がアシスタントとして2泊3日の全行程に同行し、両校学生の交流促進に大きく貢献する交流プログラムとなりました。今回の訪問を通して、MTUの学生は日本のキリスト教の現状を体験的に学び、両校の学生にとても交流を深め、連帯を確かめ合う機会を持つことができました。



Mission in Dialogue 報告

キリスト教伝道者コース2年 坂田 愛美



坂田さんは前列右から2番目(韓服体験の様子)

今年の「Mission in Dialogue A」では、日韓のキリスト教の関わりや在日韓国人の歴史についての講義を日本で受け、8月1日から5日にかけて韓国を訪問しました。滞在中は、宗教と歴史の関わり、韓国におけるキリスト教について学び、実際にメガチャーチや大聖堂、景福宮などを訪ねました。講義や訪問を通して、歴史を知ることが現在を理解するためにとても大切なことであること、実際に現地を訪れることで新しい視点が得られることを学びました。また、街に立ち並ぶ教会を目にし、キリスト教がこの国の文化や生活に根付いていることを実感しました。言葉の壁がある中でも、監理教神学大学(MTU)の学生たちと信仰や将来について語り合えたことは大きな喜びです。さらに、韓服体験や美味しい食事、夜遅くまで歩きながら語り合った時間は、かけがえのない経験になりました。今回の学びと喜びに満ちた経験を支えてくださった皆さまに心から感謝し、今後も韓国との繋がりを大切にしながら信仰と学びを深めていきたいです。

ペーターセン・エスベン 助教・宣教師



クリスチャン・ダイアローグとは何でしょうか? デンマークの神学者キルケゴーは、神との対話は返事がない一方通行のモノローグのようだと言いました。しかし、それでも対話は神やキリスト教への理解を深めるために重要です。ドイツの神学者ブーバーは、対話を通して私たちは本当の人間となり、他者や神と出会えると述べました。彼は、自分の目的で話す「会話」と、心を開き相手から学ぶ「本当の対話」を区別しました。

その「本当の対話」を学ぶのが、神学部の「Mission in Dialogue A」プログラムです。今年は8月1日から5日まで、韓国ソウルで行われ、関西学院大学から6人の学生が参加し、監理教神学大学(MTU)の学生と交流しました。学生たちは講義や現地見学を通して、韓国キリスト教の文化や歴史を学びました。聖書は共通でも、その理解や実践は文化によって大きく異なることを実感しました。

キリスト教思想・文化コース2年 友岡 巧

本プログラムでは、韓国の監理教神学大学(MTU)に留学して、ソ・ヨハン先生を中心とした現地の方々から韓国キリスト教の特徴や儒教文化との密接な関わりについて学びました。その中でも印象的だったのは、3日目の朝に善き牧者教会、いわゆるメガチャーチで主日礼拝に参加したことです。まず主日礼拝を3回以上に分けて行うほどの教員の多さに驚きました。そして日本基督教団の教会でよく歌うような伝統的な讃美歌と、ワーシップソングの両方を歌う礼拝形式はとても新鮮に感じました。また韓国の学生との交流では、韓国キリスト教会の抱える問題や、コロナ禍前後に生じた変化などを教えていただきました。現地の方々にはクリスチャンでない私にも興味をもって話してくださったことが嬉しかったです。最後に、本プログラムでは日本で感じられない教会の雰囲気や学びを経験できたので、来年の「Mission in Dialogue B」では私が韓国的学生に日本の教会を教えることができるよう今後も学業に励みたいです。



友岡さんは中央

特に驚いたのは礼拝の違いでした。学生たちは「善き牧者教会」のメガチャーチを訪れ、1万人以上が参加する礼拝を体験しました。現代的な音楽、電気楽器の使用、そして聖餐式ではパンではなくケーキが配られたことも印象的で、「これは聖書的に良いのか?」という楽しい議論にもなりました。

また、毎朝6時に行われる早朝礼拝にも参加し、静かな祈りや默想の時間に感動しました。これを日本で導入できたら、教会の新しい形になると学生たちは感じました。

最終日にはMTUの学生と「信仰とは」「宣教の方法」「多数派と少数派としてのキリスト教」などをテーマにディスカッションを行いました。深く学び合う本当の対話の中で、互いの理解が深まりました。

最後に、温かく迎えてくださったMTUとソ・ヨハン准教授に感謝します。来年の日本での開催にも、同じ愛とおもてなしで応えたいと思います。



メガチャーチでの礼拝

学生活動報告

■ 神学部交流ピクニック、松谷信司氏講演会

キリスト教思想・文化コース2年 岩見 玲奈

神学部学生会の活動を報告いたします。4月26日(土)に、甲山森林公园で「神学部交流ピクニック」を行いました。1年生から4年生まで合計15名の参加があり、これから学びを共にしていく学生同士が親睦を深める時となりました。天候にも恵まれ、あたたかい日差しの下で自然を満喫しながら、昼食を囲み、互いの近況や関心を語り合うことができました。

芝生の上では、学年を越えて交流が広がり、神学部に入学したきっかけや学びに関する真面目な話題から、趣味や将来の計画にいたるまで、笑顔の絶えない会話が続きました。また、昼食後には全員でモルック大会を楽しみました。普段は授業で顔を合わせるだけの関係も、こうした機会を通してぐっと距離が縮まりました。新入生たちは「先輩とも話せて楽しかった」「またこのような機会を持ちたい」と感想を語っており、神学部にとって大切な交わりの時となりました。私自身も、入学したばかりで話したことのなかった1年生と他愛もない話をし、関わることができたことを本当に嬉しく思っています。今回のピクニックは、互いに支え合っていく関係を築く良いきっかけとなりました。



モルック大会

7月9日(水)には、「キリスト新聞社」の編集長である松谷信司氏を迎えて、「キリスト教はオワコンか 境界を越えれば、教会が見える」と題した講演会を開催しました。松谷氏はまず、これまでのキリスト教会の歩みや現状について触れつつ、キリスト教がなお持っている可能性について語られました。その上で「主体的で魅力ある新しい宣教を」と強調し、これから教会は枠を越えて人々と関わっていく必要があると話されました。

講演の中では、誰もが知っているエンタメを例に挙げながら、キリスト教が社会に開かれていくポテンシャルを示され、会場からは時折笑いも起きました。難しいテーマでありながらもわかりやすく語ってくださったので、学生たちは熱心に耳を傾けていました。私も講演を聴きながら、次世代の宣教を担っていく一人として、一つの方法だけで宣教を考えるのではなく多くの新しい方法での可能性を探っていきたいと感じました。質疑応答では質問が数多く寄せられ、活発なやり取りが続きました。参加した学生からも「聞きやすかった」との声が多数あり、神学部での今後の学びを考える良い機会となりました。



学生会メンバーと松谷氏(中央左)

神学部学生控室 新ロッカー贈呈式

神学部後援会の寄付により、老朽化していた神学部学生控室の個人ロッカー140人分が新しく設置され、9月18日に贈呈式が行われました。旧ロッカーは40年以上使用され、開閉不良や衛生面が課題となっていました。式には後援会長の大仁田拓朗氏、岩野学部長、神学部学生会が出席し、寄付への感謝と

新ロッカーへの期待を語りました。青山莞太朗・神学部学生会執行委員長は「ロッカーを友人のように大切に使い、後輩に受け継いでいきたい」と述べ、物入れセレモニーも行われ、学生たちから拍手が送られました。



物入れセレモニーの様子

新入生の声

キリスト教伝道者コース1年 渡部 忠晃



神学部に入学以来、長く感じられた期間は4月の最初の1週間だけのこと、あっという間に秋学期を迎えるという時期となりました。そのように短く感じられた春学期でしたが、この間、たくさんの知識、考え方を知り、ともに学ぶ仲間と出会うことができました。講義はキリスト教の基礎的知識からキリスト教と哲学とを絡めた思想や論争など、興味深い内容ばかりで、先輩方の手厚いサポートとユニークな同学年の皆の存在もあって、大変充実した日々を送ることができます。自分に用意された道を万全な状態で歩けるよう、これからの大大学生活にも臨んでいきたいです。

キリスト教思想・文化コース1年 浦田 紗希



初めての経験だらけの春学期でしたが、沢山の新しいことに出会い、ドキドキとワクワクに溢れた、あっという間の3か月でした。

大学で初めて触れたキリスト教は私にとってまさに「未知の世界」で、はじめは授業についていけるかとても不安でした。しかし、様々な授業を通して、段々と面白さに気づくことができ、毎回の授業ではついていくのに必死でしたが、新たな発見と充実した学びの連続でした。

また、多くのお友達や頼れる先生方にも恵まれ、大人数でないからこそそのつながりの強さや親密さに、安心感を覚えることが多いです。

まだまだ始まったばかりの大学生活ですが、これからも自分のペースで学びや興味を深め、実り多い4年間にできるよう頑張りたいです。

学生の声 神学部で学ぶ



キリスト教思想・文化コース3年 谷口 裕也

Q1. 神学部に入学したきっかけは?

特に学びたい分野が無かったので、せっかくなら他にはない学びを得られる場を探しているうちに神学部の存在を知り、受験しようと決めました。また世界史に興味があったため、自分の得意な分野を学びたいという理由でも選びました。関西学院大学の神学部は他の神学部に比べ学生数が少なく、学生間の交流が盛んであるということも魅力的に感じました。

Q2. 現在神学部で興味を持って学んでいることは?

聖書ヘブライ語に興味を持って学んでいます。言語体系が確立される前に衰退したこの言語は少ない語彙の中で文章が組まれています。(例えば、「狡猾な」を意味する形容詞は、文脈のとらえ方によって、単に「賢い」と考えることもできます。) 日頃何気なく読んでいる日本語訳聖書は、実は研究者の学術的な解釈の賜物であることを知ってから、原語のヘブライ語に興味がわきました。一般的な大学生活ではまず目にすることが出来ない聖書ヘブライ語をみなさんも学んでみませんか?

Q3. 将来の夢や目標はありますか?

卒業後の明確な目標はありませんが、今のところ関西学院の事務職を目指しています。学ぶことの喜び、楽しさを再認識させてくれたこの学校に恩返しをしたいと考えています。

Q4. 神学部生、神学部入学を目指している受験生に 対してメッセージをお願いします。

関西学院大学神学部には、私のように特定の信仰を持たない人も多く在籍しています。全くキリスト教になじみのなかった私でさえ、興味を持つ分野ができ、日々友人と学校生活を楽しむことが出来ています。

特定の信仰を持たない人でも学びの場だからこそ固定観念にとらわれない画期的な意見を出せることがあります。もし入学を迷われている方がいれば、オープンキャンパスやチャペルアワー等の神学部に触れる機会を活用して欲しいと思います。

秋季学術講演会 『私の先祖はさすらいのアラム人でした』（申命記26章5節） —古代イスラエルの歴史と旧約聖書文学の形成

ベルント・U. シッパー 氏（ベルリン・フンボルト大学教授、国際旧約学会会長）
2025年10月21日 於：関学会館レセプションホール 報告者：水野 隆一 教授

10月21日、ベルリン・フンボルト大学教授、国際旧約学会（IOSOT）会長ベルント・U. シッパー氏を迎えて、秋季学術講演会が行われました。日本語で出版された著書としては、昨年『古代イスラエル史』（山我哲雄訳、2024年、教文館）があります。

講演は、「『私の先祖はさすらいのアラム人でした』（申命記26章5節）—古代イスラエルの歴史と旧約聖書文学の形成」と題して行われました。以下は、その概略です。

G. フォン・ラートは申命記26章5-10節を非常に古い「歴史的信仰告白」とする仮説を示した。その背景には、旧約聖書の記述の歴史性を信頼し、口承伝承の力を認める理解があった。しかし、過去30年にわたる考古学的研究の進展によって、「聖書に描かれているイスラエル」と「歴史的イスラエル」あるいは「古代イスラエル」の違いが認識されるようになった。

バビロニアやエジプト・エレファンティネ島で発見された聖書外資料からは、バビロニアとエジプトには多文化的なユダヤ人の共同体が存在し、他の民族との結婚も行われていたことがうかがわれる。「バビロニア

のエルサレム」と考えられていた都市も存在し、エレファンティネには「ヤフ」の神殿もあった。また、ゲリジム山では広大な神域でYHWHの祭儀が行われていた。そして、これらの共同体とエルサレムの共同体とは、書簡をやり取りするなど、交流があった。

ここから、ペルシア時代、そしてヘレニズム時代を通じて、多様な幅広いアイデンティティが存在したと考えられる。一方の極にはエズラ・ネヘミヤ記があり、外国人との明確な区別を主張し、他の民族との結婚を拒絶していた。もう一方の極にはエレミヤ書29章、ルツ記、ヨセフ物語に見られる、より寛容な態度があった。異なる形態のヤハウェ宗教、共同体が存在しており、それが異なる視点を持つ旧約聖書文学の形成に影響を与えたと考えられる。この認識によって、旧約聖書の中に文学間の批判的対話が存在することを認めることが可能となる。

最新の研究成果に基づいた講演は、旧約聖書文学を新たな視点で解釈する必要性を示しており、これからの旧約研究に刺激を与えるものでした。



MSセミナー2024・2025報告

MSセミナー企画・運営委員長 岩野 祐介 教授

2025年8月26日から28日の3日間、MSセミナー2024・2025が神戸栄光教会を会場として開催されました。昨年度のセミナーが台風のため延期となり、今年度合同して開催されたものです。

2024年度および2025年度に教会着任からそれぞれ5年目・10年目を迎えた先生方7名、講師2名、またスタッフ（学生スタッフを含む）7名、計16名の参加がありました。また神学部補佐室から教務補佐1名が事務作業面を担ってくださいました。

今回の講師は本多肇先生（日本基督教団隠退教師）と芦名定道先生（関西学院大学神学部客員教員）のお二人でした。本多先生は「教会付帯施設の運営に關わり続けて」「牧会経験を中心に」と題された二度の講演を、また芦名先生は「現代における福音宣教—情報化・デジタル化・AI」と題された神学講演をなさいました。

牧会、説教について、これから目標について、参加者同士で自由に意見を述べあう時間をとることもでき、スタッフとして参加された皆さんからもご経験を伺うことができて、非常によい時間となつたのではないかと思います。

神戸栄光教会をはじめとして、日頃よりご支援くださる皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



ユースキャンプ報告



井上 智 准教授

第42回関学ユースキャンプが8月5日(火)から7日(木)にかけて、関西学院千刈キャンプにて開催されました。講師には家山華子先生(箕面教会)をお迎えし、参加者11名、スタッフ12名(学生スタッフ2名含む)の計23名で実施いたしました。

今回のテーマは「自分だけの正解を探し求めて」でした。家山先生は、ご自身の経験をもとに、迷いや悩みの中にも神さまが共にいてくださること、自分の道は自分で選び取ってよいのだというメッセージを語ってくださいました。参加者同士で思いを分かち合うワークショップも行われ、自分の考えを深める貴重な時間となりました。

今回から、移動時間がかなりかかること、もうすでに神学部を訪問している参加者が多いこと等から、神学部訪問は希望者のみとし、終日千刈キャンプでプログラムを実施しました。千刈キャンプでの実施は2回目。会場の使い勝手等を改めて確認することができ、よりよいキャンプとすることができます。すべての出会いに感謝しつつ、参加者のこれから歩みに、また、支えてくださったすべての方々の上に、神さまの祝福を心よりお祈りいたします。

夏のオープンキャンパス報告

8月2日(土)、3日(日)に西宮上ヶ原キャンパスでオープンキャンパスを開催しました。神学部は柳澤田実准教授が「愛はお金で買えますか?」「推し活は現代社会の宗教なのか?」、淺野淳博教授が「古代地中海世界を歩こう:ギリシャ編・ローマ編」と題し模擬講義を行いました。また神学部独自プログラムとして、加納和寛教授が「フェイクかガチか?キリスト魔鏡の『神話』に迫る!」、森本典子専任講師が「アンパンマンがイエスならジャムおじさんは神なのかーキリスト教の隣人愛あれこれ」をテーマに話し、高校生らは実物の「魔鏡」を見たり、クイズを解いたりしました。300人以上が参加し、神学部での学びに触れました。



2026年度 神学部・神学研究科入学試験ご案内

神学部・神学研究科入試日程

※各入試の最新情報及び詳細については以下のWEBサイトからご確認ください。
<https://www.kwansei.ac.jp/admissions/>

■神学部

＜お問い合わせ先＞ ■関西学院大学神学部 Tel.0798-54-6200 ■関西学院大学入学センター Tel.0798-54-6135

		出願期間	試験日
一般入試	全学部日程	<インターネット出願> 2026年1月4日(日)～1月22日(木) ～23時まで	2月1日(日) 2月2日(月)
	学部個別日程	<出願書類郵送> 2026年1月4日(日)～1月22日(木) [当日消印有効]	2月4日(水) 2月7日(土)
	共通テスト併用日程(英語)		2月7日(土)
利用する入試 大学入学共通テスト	1月出願	<インターネット出願> 2026年1月4日(日)～1月16日(金) ～23時まで <出願書類郵送> 2026年1月4日(日)～1月16日(金) [当日消印有効]	[大学入学 共通テスト] 1月17日(土) 1月18日(日)
	3月出願	<インターネット出願> 2026年2月15日(日)～3月10日(火) ～15時まで <出願書類郵送> 2026年2月15日(日)～3月10日(火) [当日消印有効]	

■神学研究科 <博士課程前期課程>

＜博士課程後期課程＞

		出願期間	試験日
第2次	一般	2月9日(月) ～ 2月16日(月) (期間内必着)	2月20日(金)
	社会人		
	外国人留学生		

		出願期間	試験日
一般	2月9日(月) ～ 2月16日(月) (期間内必着)	2月20日(金)	2月21日(土)
	外国人留学生		



浅野 淳博・神田 恵菜(著)

『古代ギリシャ語の歩き方 初級』(図書出版ヘウレーカ、2025年9月)



本書では新約聖書を舞台として、その執筆言語であるコインエー・ギリシャ語を学びます。使徒パウロがその宣教地であるコリントを案内し、読者はそこを旅するように1日1頁ゆったり学習しても約3ヵ月で初級文法の基本をマスターできます。単語や文法の学習の息抜きとしてコラムや写真を多数掲載しました。語学習得に不可欠な耳からの学習をサポートする音声付きです(専用のYouTubeチャンネルにアクセス)。本文2色刷。

小田部 進一・水野 隆一・橋本 祐樹(他共著)

関西学院大学キリスト教と文化研究センター(編)

『戦争の記憶と想起 — 平和への警告とその継承』

(キリスト新聞社、2025年6月)



本書は、関西学院大学キリスト教と文化センターで2023年度から2年間にわたり行われたプロジェクト「戦争の記憶と想起 — 平和への警告とその継承」の成果をまとめたものです。本書は8つの論考から構成され、長崎や広島のキリスト教主義学校の平和学習についても紹介しています。終戦80周年を迎える年に、和解と平和の構築を目指して「戦争の記憶と想起」について考え、平和学習や平和構築の実践のためのヒントを提供する一冊です。

ペーター・セン エスベン(共著)、中丸 祐子・田中 琢三(編)

『北欧ロマンとナショナリズム: 内村鑑三・開拓・民族主義』

(勉誠社、2025年7月)



本書は、「幸せな北欧」という日本で定着したイメージの背景を、歴史・思想・宗教といった多角的な視点から読み解く試みです。福祉や教育、ジェンダー平等といった肯定的な要素だけでなく、その陰に潜む差別や排除の構造にも光を当てている点が印象的でした。内村鑑三の『デンマーク國の話』を参照しながら、日本と北欧双方の「幸せ」像を対象化する構成も興味深く、北欧を単なる理想郷としてではなく、現実の歴史の中で考えための示唆に富んだ一冊です。

Esben Petersen(共著)、Jørn Borup・Elisabetta Porcu(編)
『Japanese Buddhism in Europe』(BRILL、2025年7月)

本書は、日本仏教がヨーロッパに受容されてきた歩みを多角的に描き出しています。特に禅が詩人や思想家、芸術家を魅了し、西洋文化に深く取り込まれてきた過程を丁寧にたどる一方、真宗や創価学会といった他宗派の役割にも目を向けている点が新鮮です。明治維新以降の学者や移民、宣教師の活動を軸に、政治や文学、民族宗教、さらにはキリスト教的解釈にまで議論を広げ、単なる宗教史にとどまらない重層的な交流史を提示します。

M.L.ベッカー(著)、加納 和寛(訳)

『総説 キリスト教神学—21世紀の神学体系—』(教文館、2025年9月)



神学諸科の構造、神の实在、聖書とその解釈、教理の体系、信仰の本質、人文科学・社会科学・自然科学および無神論との対話などを通して、キリスト教の思想・制度・歴史を批判的に考察しながら、神学とその現代的意味を学ぶ、現代における「神学総論」の決定版です。「神学とは何か」という問い合わせに正面から答えつつ、社会からの批判や要請にどう応えるか、これから神学はどうあるべきか考えます。

関西学院大学神学部 第27回 キリスト教教育研究集会のご案内



関西学院大学神学部では、かねてから学校教育におけるキリスト教主義教育の重要性を認識して、その中心的役割を担う聖書科教師の育成に努めてまいりました。この研究集会は、今日の聖書科教師が直面している様々な課題を明確に自覚し、その解決の方法を具体的に作り上げていくことを目標としています。下記の要領で、第27回の研究集会を開催いたします。キリスト教教育を担当なさる多くの方が参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

神学部補佐室 Tel.0798-54-6207

◆講 演 ……『牧会における聖書の役割

—"関係の言葉としての聖書"を中心にして

◆講 師 ……家山 華子 氏

(日本基督教団箕面教会、関西学院大学神学部非常勤講師)

◆現状報告 ……塙田 直文 氏(神戸国際大学附属高等学校)

◆と き ……2025年12月25日(木) 12:30~18:00

◆と こ ろ ……関西学院中学部 中学部棟3階多目的教室

◆申込締切日 ……12月5日(金) 16時

2025年度春学期(4月~9月) 神学部日誌

4/ 1 大学院入学式

4/ 1 大学入学式

4/ 8 春学期授業開始(学部・大学院)

始業礼拝・始業講演(浅野 淳博 教授)

「ポンペイから見える古代人の営み」

4/ 16 GPA制度による成績優秀者顕彰礼拝

4/ 21 神学部イースター礼拝(森本 典子 専任講師)

4/ 23 神学研究会(森本 典子 専任講師)

「日本におけるディアコニア研究の課題」

5/ 27 神学部・神学研究科人権研修会

(牛田 匡 氏 日本基督教団久宝教会牧師、

社会福祉法人日本コイノニア福祉会理事長・チャプレン)

「キリスト教福祉のこころ」

5/ 28 神学研究会『神學研究』第72号合評会

発題:ペーター・セン エスベン 助教 評者:小田部 進一 教授

発題:薄井 良子 氏 評者:加納 和寛 教授

6/ 9 神学部ペンテコステ礼拝(加納 和寛 教授)

6/ 10 神学部(神学研究科)学術奨励基金各種奨学金授与礼拝・
山内奨学金授与礼拝

6/ 25 神学研究会(水野 隆一 教授)

「ヨナ書の間テクスト性:読みの戦略(5)

—海と乾いた地を作った神」

7/ 21 春学期授業終了(学部・大学院)

7/ 23 神学研究会(土井 健司 教授)

「ニュッサのグレゴリオスの生涯」

7/ 23 修士論文中間発表(大学院博士課程前期課程)

7/ 24~31 春学期定期試験

8/ 2・3 オープンキャンパス

8/ 5~7 第42回関学ユースキャンプ

8/ 8~9/ 19 夏季休業

9/ 16 春学期大学卒業式・大学院学位記授与式

9/ 20 神学基礎テスト

9/ 22 秋学期授業開始(学部・大学院)

関西学院大学神学部 第60回 神学セミナーのご案内

新型コロナウイルス感染症のパンデミック以降、教会における最新技術の導入はさらに進展しつつあります。とりわけ近年の生成AIの普及は、礼拝のあり方や牧会活動に新たな問い合わせを投げかけています。

今回のセミナーでは、メディア業界と神学の対話、AI技術の担い手による視点、そして各国における技術導入の実情など、多様な観点から「AI時代の教会」について考察します。技術革新が信仰共同体に与える影響を見つめつつ、教会が直面する新しい課題に、神学的・実践的にどう向き合うべきかを共に探る機会となれば幸いです。

牧会者、信徒、学生の皆さまをはじめ、このテーマに関心をお持ちの方々のご参加を心よりお待ちしております。

◆主題 ---「AI時代の教会」

◆日時 ---2026年2月16日(月)9:30-16:30

◆場所 ---関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスE号館

(対面・オンライン併用)

対談:松谷 信司(キリスト新聞社社長)

柳澤 田実(関西学院大学神学部准教授)

AIレクチャー:脇屋 国継(AIコンシェルジュ)、本学神学部同窓